

接続料の算定等に関する研究会 第52回会合当社ご説明資料

2022年1月31日
ソフトバンク株式会社

1. 検討に当たって

2. 検証対象

3. 検証方法

1.検討に当たって

2.検証対象

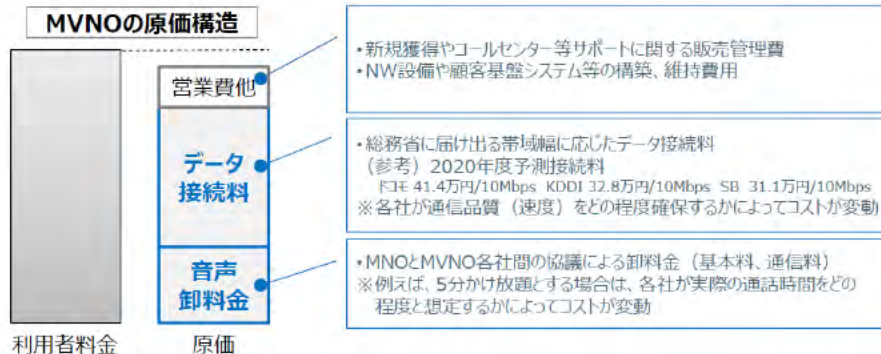
3.検証方法

「MNO廉価プランと同等のサービス実現困難」というMVNO殿からの提言を受け、 廉価プラン水準がサービスの提供に必要な費用 (データ接続料等)を上回っているかを検証

MVNOの原価構造

5

MVNOのサービス原価において、データ接続料と音声卸料金が 大半を占める
MNOとMVNOのイコールフットिंगの観点から、データ接続料や音声卸料金が適正であることが、公正競争上極めて重要



MNOの原価構造

将来に亘ってイコールフットिंगが担保されることが望ましい

イコールフットिंगの確保のための要望

2

- ◆ 今般、MNO各社において「廉価プラン」の導入が発表されたことについては、
 - ・家計負担の軽減に繋がるものであり消費者にとって望ましいもの
 - ・一方で、多くのMVNOが提供するプランと利用者料金水準が接近するものとなっていることから、MVNOに対し深刻な影響を与える可能性があり、MVNOにとっては「廉価プラン」に対抗するサービス提供が不可欠
- ◆ しかしながら、これらの「廉価プラン」は、現行の接続料や卸料金では、MVNOが実現することが極めて困難なプラン(データ容量、データ通信品質、無料通話)となっており、接続料や卸料金が、MNOとMVNOのイコールフットिंगの観点から適正ではないとの強い疑義を生じさせるものとなっている



MNOとMVNOが同じ条件で公正に競争するためのイコールフットिंगの早期実現が喫緊の課題と考えており、MNOとMVNOのイコールフットिंगを確保するための緊急措置の実施について強く要望

なお、イコールフットिंगが確保されない場合は、MVNO振興を旨とする競争政策を後退させることとなり、移動通信市場がMNOグループによる協調的寡占状態に回帰し、MVNOが果たしてきたサービスの高度化や多様化が将来に亘り失われかねず、更には料金の低廉化が期待できなくなる等、消費者にとって決して好ましいものとならない

市場環境の変化

前回検証時からには下記状況が変化

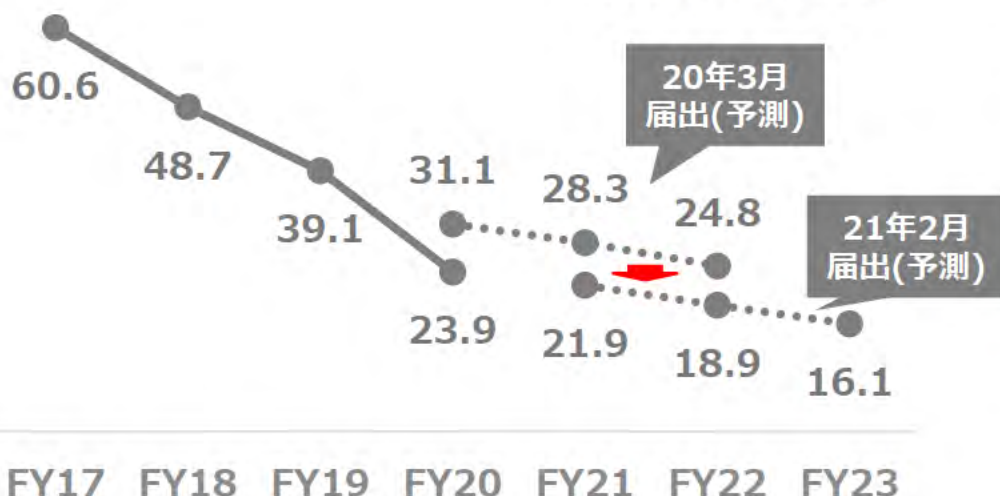
① データ接続料の**大幅低下**

② **00XY接続導入**による調達手段の多様化・料金低廉化

「接続料等水準が不当でないことを確認」する**必要性は低下**

接続料の低廉化

(万円/10Mbps・月)



00XY接続の概要

代替手段となる接続機能



モバイル競争市場の実態

検証実施するのであれば、
楽天モバイル (非指定事業者) も含む料金競争が行われている実態を考慮すべき

Rakuten UN-LIMIT V
2980円で使い放題 発表

Rakuten UN-LIMIT VI
0~1GB 無料、~3GB 980円 発表

料金そのまま**4G・5G**も使える
 Rakuten UN-LIMIT V

プラン料金 **2,980円/月**

1年無料
300万回線分

全国どこでもデータ・通話使い放題*

- 高速で完全データ使い放題
5Gエリアは5G通信で使い放題**
- データ容量5GB/月
超過後は最大1Mbpsで使い放題
- Rakuten Linkアプリでかけ放題**

* 全国どこでもデータ・通話。高速で完全データ使い放題。5Gエリアは5G通信で使い放題。5Gエリアは5G通信で使い放題。5Gエリアは5G通信で使い放題。
 ** 全国どこでもデータ・通話。高速で完全データ使い放題。5Gエリアは5G通信で使い放題。5Gエリアは5G通信で使い放題。5Gエリアは5G通信で使い放題。

Rakuten UN-LIMIT VI

たくさん使っても
2,980円で無制限!

月に20GB使っても
1,980円!

9~20GBまで
1,980円!

あまり使わない人は
なんと**0円!**

0円/月

毎月使った
データ分だけ支払う
ベストなワンプラン

無制限
20GB超過分は1GBあたり298円

2020/9
発表、開始

2021/1 発表
2021/4 開始

2020/12 発表 2021/3 開始	2021/1 発表 2021/3 開始	2021/2 発表 2021/3 開始
ahamo	povo	LINEMO
20GB 2980円	20GB 2480円	20GB 2980円

2021/7 発表、開始	2021/9 発表、開始
LINEMO ミニプラン	povo
3GB 990円	基本料 無料

1. 検討に当たって

2. 検証対象

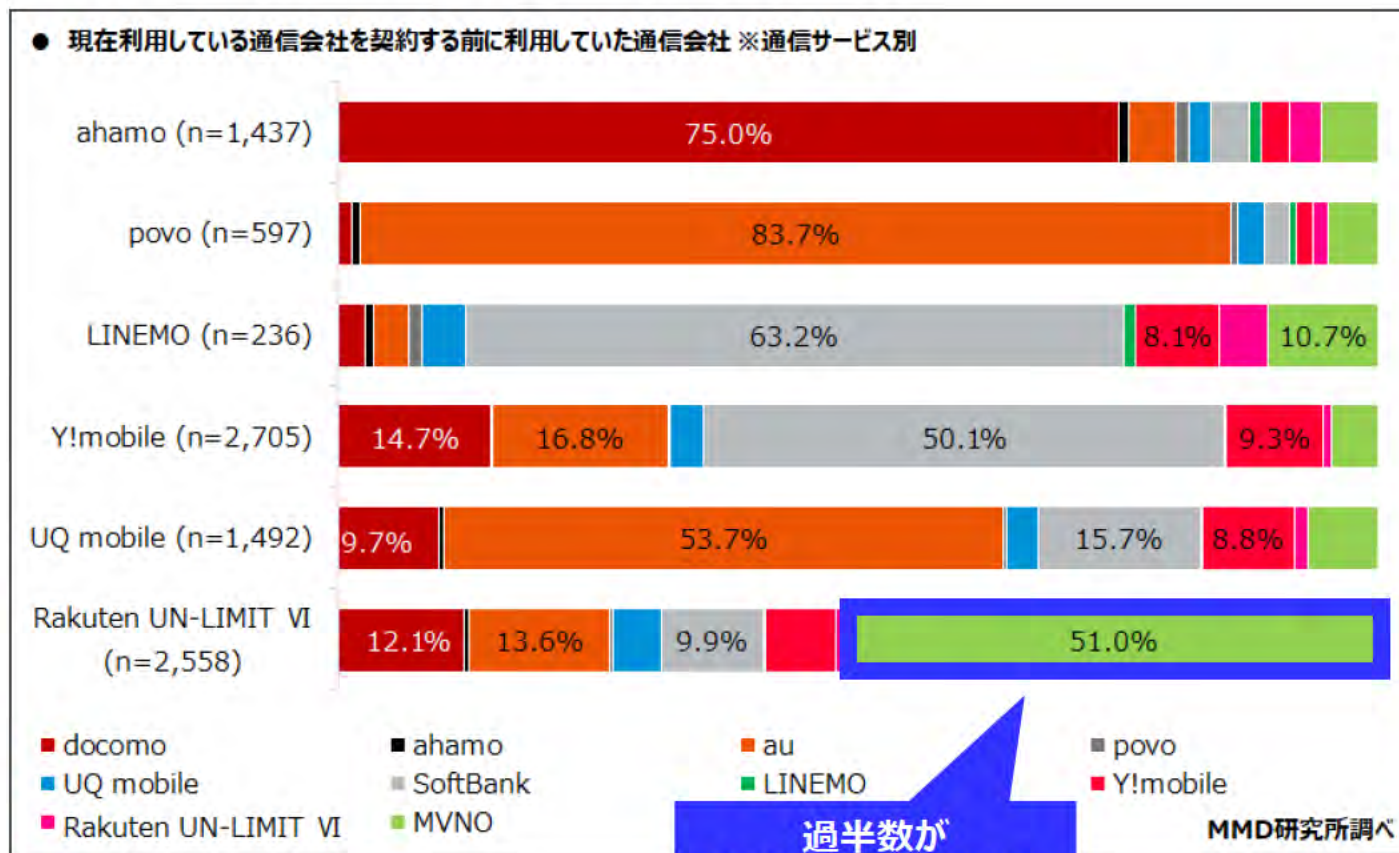
3. 検証方法

**前回検証時は第二種指定事業者のみを対象とし、
届出した接続料水準の妥当性を検証
(ただし指定事業者の接続料金は直近も大幅に低下)**



**前述の通り、
モバイル市場全体の競争状況を考慮する上で
楽天モバイルを含む全MNOを対象とすべき**

楽天モバイルは MVNOからの乗り換えが**50%以上**を占める



楽天モバイルは他MNOと比べ MVNOからの乗り換えが**2倍～5倍**

【図表Ⅱ—19 利用者意識調査結果（すでに乗りに換えた利用者の動き）】

問：(すでに新料金プランに乗り換えた者に対して)あなたが乗り換えた先の料金プランをお選びください。(n=465)

×

問：あなたが乗り換え前に契約していた携帯電話会社はどこですか。(n=465)

(単位 %) (単位 96)

移行先 移行元	全体	NTTドコモ ahamo	KDDI(au) povo	UQモバイル くりこしプラン S, M, L	ソフトバンク LINEMO	ワイモバイル シンプルS, M, L	楽天モバイル Rakuten UN- LIMIT VI	IIJ(IIJmio) モバイル サービスギ ガプラン	オプテージ (マイネオ) マイビタ	日本通信 合理的20GB プラン	その他の MVNO
全体	100.0	20.7	11.7	12.3	2.1	13.0	32.9	2.8	0.8	0.0	3.8
NTTドコモ	23.2	16.5	0.2	0.8	0.0	1.1	3.9	0.2	0.2	0.0	0.2
KDDI(au)	23.5	0.4	11.0	5.6	0.0	0.6	4.8	0.0	0.4	0.0	0.6
UQモバイル	4.7	0.4	0.0	2.7	0.0	0.4	0.8	0.2	0.0	0.0	0.2
ソフトバンク	14.4	0.9	0.0	0.6	1.7	5.9	5.0	0.0	0.0	0.0	0.2
ワイモバイル	7.0	0.0	0.0	1.2	0.2	4.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0
楽天モバイル (UN-LIMIT Vプラン)	4.4	0.8	0.4	0.2	0.2	0.4	1.9	0.2	0.0	0.0	0.2
楽天モバイル (UN-LIMIT Vプラン以外 のプラン)	12.8	1.0	0.0	0.5	0.0	0.0	10.6	0.2	0.0	0.0	0.5
IIJ(IIJmio)	2.7	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.9	1.4	0.0	0.0	0.0
オプテージ (マイネオ)	1.9	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.2	0.0	0.0
その他の MVNO	5.4	0.2	0.0	0.2	0.0	0.5	2.3	0.4	0.0	0.0	1.8

MVNO⇒他MNO
0.0%~0.5%

MVNO⇒楽天モバイル
0.9%~2.3%

出典：本WG（第21回）（2021年6月23日）資料

接続料検証の必要性が低下している点も踏まえ、
必要最低限の検証とすべき

対象プラン選定に際しては以下を考慮

既存プラン



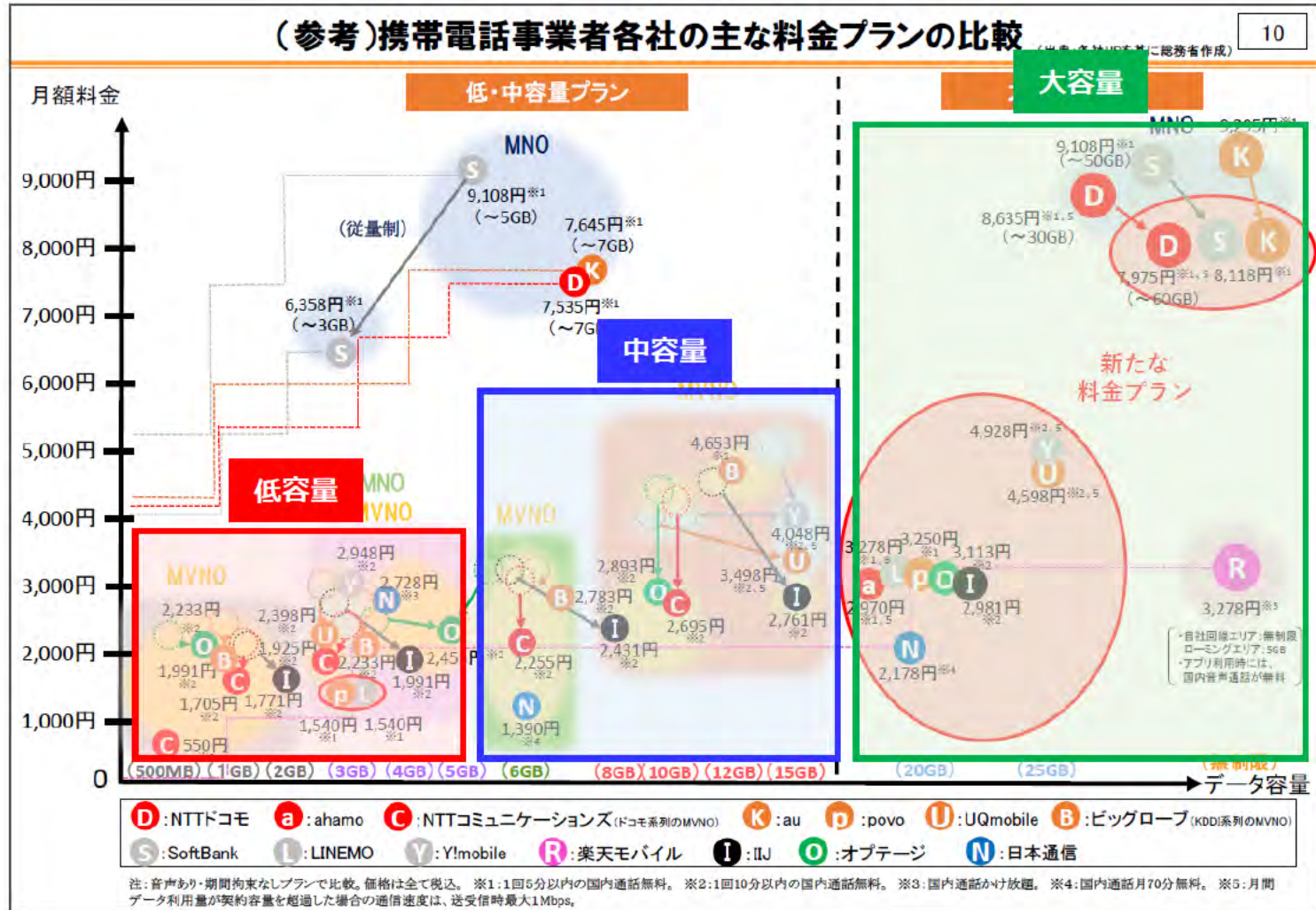
接続料水準が低廉化の場合検証不要

新プラン



同一カテゴリ内(次ページ参照)でMVNOがMNOと同等プラン提供不可との申告があり、申告内容に合理性がある場合は実施

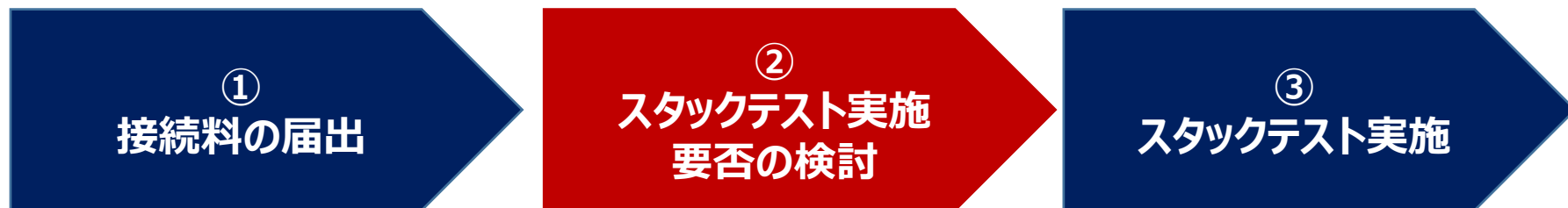
MNO, MVNOのプランを 低、中、大容量のカテゴリに分類しMNOのプランを評価



二種指定接続料は届出制であることから、
スタックテストを満たすことが接続料届出条件ではない

届出タイミングでの実施・報告は不要

検証の流れ(イメージ)



- 届出された接続料水準等を踏まえ、実施要否を検討
- 一種指定制度(スタックテストの結果が接続料認可条件)とは異なるため、届出時の実施は必須ではない

1. 検証に当たって

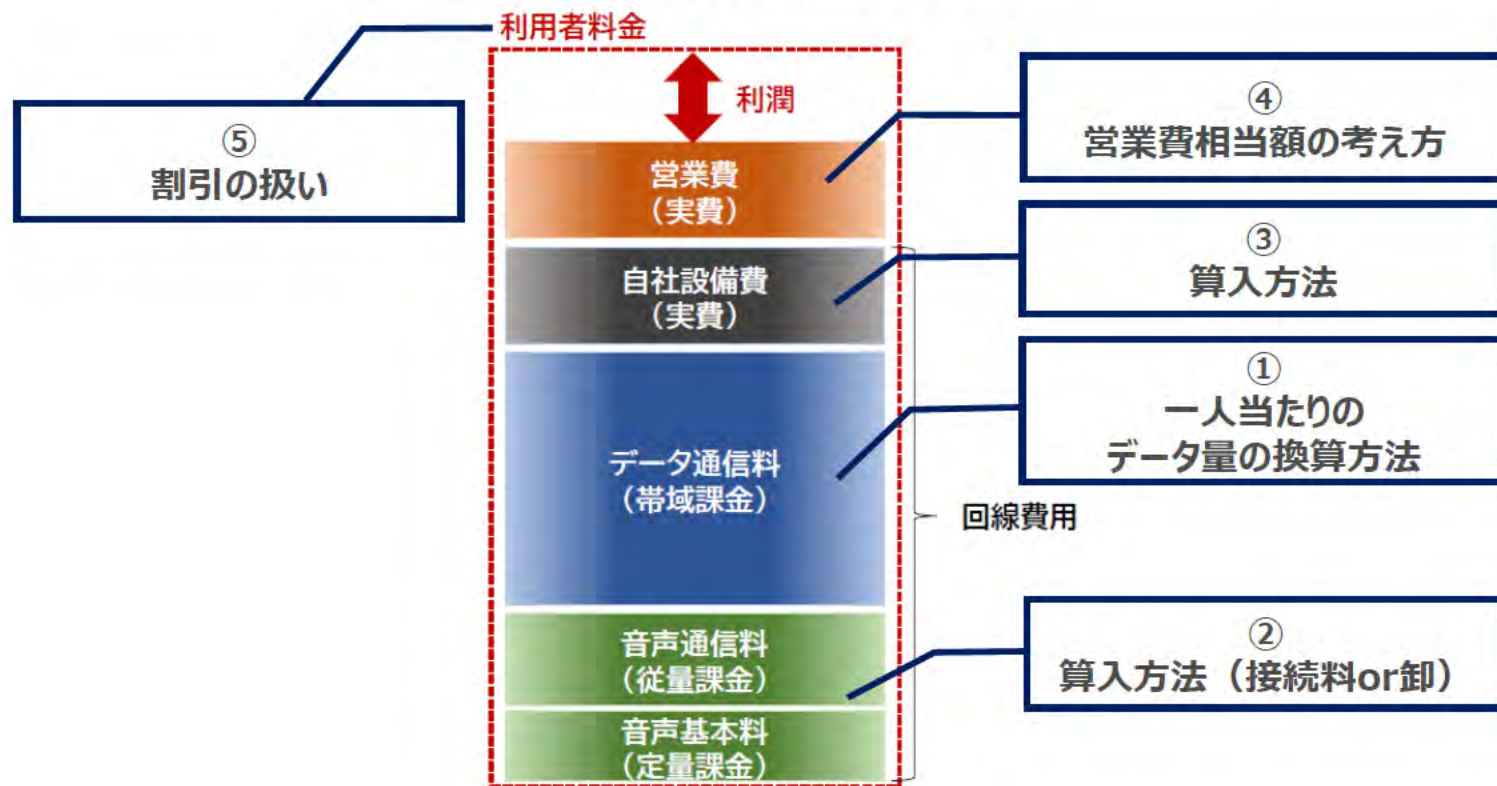
2. 検証対象

3. 検証方法

各費用項目における検証方法

各費用内訳（検証方法は次ページ以降でご説明）

<携帯料金のコスト構造（イメージ）>



論点

考え方

共通化

- データ接続料を一人当たりが負担すべきデータ月額利用料に合理的に換算することが重要
- 事業者の考えに合理性があれば共通化は不要

換算方法

- 一人当たりの負担データ接続料の換算は①月間平均データ利用量、②最繁時の必要想定帯域によることが考えられる
- 当社では、特定のプランの一人当たりの最繁時の必要想定帯域にデータ接続料を乗算して計算
- データ接続料の単位と整合するため、上記方法で一人当たりが負担すべきデータ月額利用料が合理的に算定できていると認識

データ接続料
(単位：円/10Mbps・月)

×

検証対象プランの
必要想定帯域
(xxKbps/回線)

=

データ接続料
(単位：円/回線)

論点

考え方

接続料or 卸料金

- スタックテストの検証の目的は
 - ①接続料水準の妥当性の検証
 - ②MVNOが同条件で提供できるか
- ①の観点から基本的には接続料で検証すべきであるが、
前回はMVNOが接続を選択不可能だったため、
②の観点から代替的に卸料金で検証
- 現在は接続も選択可能なため接続での検証が適当

接続料の 算入方法

- 対象プランの全ユーザーの平均通信時間に接続料を乗算して算出する

論点

考え方

具体的な設備

- 接続料原価に算入しない（MVNOからコスト回収しない）が、自社ユーザーからコスト回収する設備が対象
- 具体的にはISP、PGW、他社に支払う接続料等が該当

算定の方法

- 上記設備にかかる費用は全サービスに共通的にかかるもの（特定のサービスやプランに特化してかかるものではない）
- よって、当該費用を全サービスの回線数（MVNO回線は除く）で除することが適当

④ 営業費相当額

論点

考え方

- 各料金プラン価格は市場状況により戦略的に決められるものであり、販売形態、コスト回収期間の目標設定及び導入時期等によりかかる営業費は変動
- よって、個々のプラン毎に検証を実施する際には料金が回線費用を上回っているかを検証することが適当
 ※固定分野でもサービスメニューごとの検証では営業費未考慮

2014.7 2015.9 2016.9 2017.9 2018.9 2020.3 2021.3



音声定額 スマ放題 音声準定額 スマ放題 20GB プラン 50GB プラン 分離プラン プラン ギガフリー メリハリプラン メリハリ無制限



2014.8

「スマホプラン」
1GB 2,980円



スマホプラン
データ増量



2021/2

LINEMO

営業費
相当額の
算定・範囲

【参考】固定事業におけるサービスプラン検証方法

固定事業におけるサービスメニューごとのスタックテストでも 利用者料金が接続料相当額を上回っていることを検証 (営業費は未考慮)

(参考)固定分野のスタックテストの結果②(サービスメニューごとの検証)

14

○ 指針に基づき、NTT東日本・西日本においてサービスメニュー単位で利用者料金が接続料を上回っているか否かについて検証した結果、**全てのサービスメニューについて、利用者料金が接続料相当額を上回り、価格圧搾による不当な競争を引き起こすものとは認められなかった。**

NTT東日本 (単位:月額)

赤枠内は構成員限り

サービスブランド	サービスメニュー	①利用者料金※	②接続料相当額	③差分(①-②)	利用者料金との比較	
フレッツ光ネクスト	ファミリータイプ	10Gbit/sまでの符号伝送が可能なもの			○	
		上記以外			○	
	ビジネスタイプ				○	
	マンションタイプ(VDSL方式/LAN配線方式)	ミニ				○
		プラン1				○
		プラン2				○
		ミニB				○
		プラン1B				○
	マンションタイプ(光配線方式)	プラン2B				○
		ミニ				○
		プラン1				○
	フレッツ光ライト	プラン2				○
プライオ					○	
フレッツ光ライト	ファミリータイプ				○	
	マンションタイプ				○	
ひかり電話(関門系ルータ交換機能を用いる場合)						

NTT西日本 (単位:月額)

赤枠内は構成員限り

サービスブランド	サービスメニュー	①利用者料金※	②接続料相当額	③差分(①-②)	利用者料金との比較	
フレッツ光ネクスト	ファミリータイプ	10Gbit/sまでの符号伝送が可能なもの			○	
		上記以外			○	
	ビジネスタイプ				○	
	マンションタイプ(VDSL方式/LAN配線方式)	ミニ				○
		プラン1				○
		プラン2				○
	マンションタイプ(光配線方式)	ミニ				○
		プラン1				○
		プラン2				○
	フレッツ光ライト	ファミリータイプ				○
		マンションタイプ				○
	ひかり電話(関門系ルータ交換機能を用いる場合)					

(単位:1アクセス回線あたり/月額)

サービスブランド	サービスメニュー	①利用者料金※	②接続料相当額	③差分(①-②)	利用者料金との比較
ビジネスイーサワイド	MA設備まで利用する場合				○
	県内設備まで利用する場合				○

(単位:1アクセス回線あたり/月額)

サービスブランド	サービスメニュー	①利用者料金※	②接続料相当額	③差分(①-②)	利用者料金との比較
ビジネスイーサワイド	MA設備まで利用する場合				○
	県内設備まで利用する場合				○

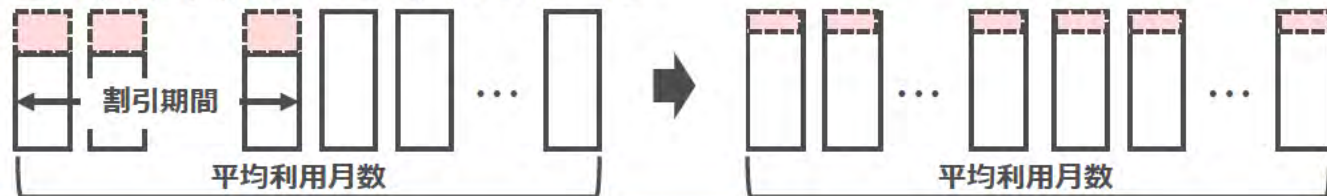
※1 利用者料金は令和2年3月31日時点(総務省要請を受け割引を考慮した後の額)
 ※2 フレッツ光ネクストファミリータイプ(10Gbit/sまでの符号伝送が可能なもの)については、令和2年度から新規に提供しているものであり、将来的に需要の増加が見込まれることから、5年間(令和2年度～令和6年度)の将来原価方式により接続料を算定していることと合わせ、収容数も5年平均を用いて接続料相当額を算定。
 (注) ○:スタックテストの要件を満たしていると認められるもの ×:スタックテストの要件を満たしていないと認められるもの。

論点

考え方

割引の 取り扱い

- 固定通信分野と同様に割引の適用回線数と非適用回線数を加重平均し、1ユーザ当たりの割引相当額を算出し、それをサービスの料金額から控除した額を利用者料金として検証すべき
- 期間が限定されている割引については、割引総額を利用者の平均利用期間で除算して考慮すべき



その他

- カテゴリを跨る階段制プランは容量カテゴリ毎の平均データ利用量により計算すべき

